

1967年 西鉄ライオンズ時代の中西太着用ユニホーム

1999年に野球殿堂入りした中西太氏が、今年2023年5月11日に90歳で永眠した。

高松第一高等学校での活躍によって多くのスカウトを受けていた中西氏は、その後公私共に深い関わりを持つようになる西鉄ライオンズの三原脩監督からの申し入れにより、同球団に入団することになる。1952年のことであった。

以降数々の雑誌や新聞に「怪童」や「強打者」、「豪打のスラッガー」というような代名詞と共に登場する。

写真は、野球殿堂博物館にて寄贈を受け所蔵している中西氏着用のユニホームであるが、その太いシルエットからは、選手時代を支えた力強い足腰が想起させられると共に彼を形容した言葉たちが浮かび上がる――。

一方で、彼の遺した書物からはもう一つの見逃ごせない大きな一面が浮き上がってくる。それは、観察者として、哲学者としての中西氏だ。

中西氏の著書『西鉄ライオンズ 最強の哲学』(ベースボール・マガジン社新書)から一説を引用する。

「自信をつけさせる、委縮させない——というのは、三原の選手起用のひとつのキーワードだった」

2023年WBCで、村上選手を起用しつづけた栗山英樹監督が想起させられる。栗山監督

は中西氏から「三原ノート」を譲り受けている。

令和の時代も色褪せない哲学は侍ジャパンの優勝だけではなく野球界を広く支え続けるだろう。

ご冥福をお祈り致します。

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 太田若葉

主なタイトル・表彰・記録

首位打者:2回
(1955・1958)
本塁打王:5回
(1953 ~ 1956・1958)
打点王:3回
(1953・1956 ~ 1957)
最多安打:2回
(1953・1957)
新人王(1952)
MVP 1回(1956)
野球殿堂入り(1999)

1967年西鉄ライオンズ時代の中西太着用ユニホーム(ホーム用)

66年に導入されたデザイン。NPBでは当時三原が監督をしていた大洋に次いで2番目に導入したとされる背ネームと、エジプト壁画風のライオン・マークの刺繍が登場している。ちなみに1960年代から70年代はエジプトが盛んに話題になった時代である。1965年に古代エジプトのツタンカーメン王のマスクが上野の国立博物館など国内数カ所で展示され、エジプト文化が日本で大きなブームになったのだ。その影響(!?)がユニホームにも及んでいるのかもしれない。

